

第3回 第3期掛川市教育振興基本計画策定委員会 議事録

日 時	令和7年9月17日（水）午後2時～4時
場 所	掛川市役所4階会議室1AB
出 席	<p>委 員 9名 （庁外）</p> <p>委 員 教育長、こども希望部長、教育部長、企画政策課長、 （庁内） こども保育支援課長、こども相談課長、こども給食課長、 学校教育課長、図書館長</p> <p>（欠席） 経営企画部長、財務部長、生涯学習まちづくり部長、協働推進課長、 文化・スポーツ振興課長</p> <p>事務局 教育政策課長、主幹兼教育政策係長、教育政策係指導主事（2名）、 教育政策係主事</p>
協 議 内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 報告事項 （1）第2回策定委員会の内容について 【事務局より】 ・第2回策定委員会議事録について説明</p> <p>5 議 事 （1）「第2期教育振興基本計画の成果と課題（案）」について【資料2-1】 【事務局より】 ・「第2期教育振興基本計画の成果と課題（案）」について説明</p> <p>【意見交換】 委員：1の市民総ぐるみの教育について、3行目までに「市民総ぐるみの教育を担う人づくりを目標に、教育行政を推進してきました」とあるが、ここは単純に「取り組んでまいりました」とした方が良い。「その施策として～」の後に「市民総ぐるみの教育の振興に努めました」とあり、被りがあった。 2の乳幼児教育の2段落目について、「まなざし事業や、」「未来学会での研修や保育士等キャリアアップ研修の広域開催」、ここが非常にわかりにくい。“や”の使い方が少し気になる。“や”や“など”は行政チックに揃えた方がいいと思う。 3の学校教育だけボリュームが多すぎるという感じがしていて、特に「こころの相談ノート」と「不登校」の部分はまとめて書いてもいいと思った。全体とのバランスの中で少し量が多いと感じた。また、最後の「近年、教育現場では～」のところに違和感があるので、代案書いたものをお渡しする。 4の社会教育については、成果が最初の2行しかなく、その後は今後のことが多く書いてある</p>	

ので、バランスが気になった。

委員：5の図書館について、図書館活動推進実行委員会は庁内の職員で構成されているのか。

図書館長：図書館活動グループの団体の皆様で構成されている委員会である。

委員：1の市民総ぐるみの教育では、前回の会議でいただいたアンケートなどを基に成果が導き出されていると思うので、もう少し定性的なフィードバックから得られたポジティブな意見を中心に組み込んでもいいのではないかと。今書いてあるのは、実際にアクションとして起こした活動結果にとどまっているので、成果というのであれば、それによってどんな影響効果を市民の方々に抱いていただいたかというところを組み込むと、よりきちんと成果に繋がっているということが述べていける。

3、4については、書き方になるが、3の後半は文末が「必要があります」で続いている。ルールに乗った書き方であれば問題はないが、そんなに必要があるのであれば、例えば上に「課題」などをまとめて、書き方を変えるとよりわかりやすくなると思う。

一方、4の社会教育では、「必要です」「必要があります」となっており、必要性というところは一緒であるが、文章の書き方が統一されていないため、ここは全体の統一感がある方がやはり文書資料としてはいいものになると思う。

(2) 「第3期教育振興基本計画の基本目標」について【資料2-2】

【事務局より】

- ・「第3期教育振興基本計画の基本目標」について事務局より説明

【意見交換】

委員：DE&Iというキーワードの説明をお願いしたい。

事務局：DE&Iについて説明。D (Diversity、多様性) E (Equity、公平性) I (Inclusion、包摂性)

委員：Well-beingのところは、単語として「健やかさ」が入ってもいいのではないかと。全体的には、幸せな暮らしとか充実した生き方みたいなものが Well-being の総合的な意味でキーワードとして合っていると思うが、「自分らしく」が2つあるので、「健やかさ」が1つ加わってもいいのかなと思う。

DE&Iのところ、Inclusionというのが「受け入れる」という意味である。ダイバーシティを考える上で、一番重要とされているところであり、多様性がそのまま認められるということがDE&Iの本質的に目指すところだと言われている。ただ、それが一番難易度が高い。極論、対立する意見を対立したまま、全員が受け入れるということに繋がっていくので、一番難しいとされているが、一番重要である。そのため、キーワードとしては、「受け入れる」や「認め合う」などが入ると、よりふさわしいキーワードになると思う。

委員：「自立心」という言葉について、掛川市では「自律心」も意識して使われていたと思うが、使い分けやどういったこだわりがあるのかを委員の皆様へ説明していただきたい。

委員：乳幼児教育では、「律」ではなく「立」を使っている。乳幼児であると0歳からまだ「律する」というところまでいかない。自分で何でもできるようになっていかなければならないと捉えるのではなく、子どもが10人いれば十人十色で、その1人1人にとっても「自立」は異なる。園でも外国にルーツを持つ子どもたくさんおり、発達面でも色々な子がいる中で、その子なりの「自立」を園では捉えており、10人いれば10人それぞれの「自立」を目指すという意味で「自立心」という言葉をここでは入れている。

委員：乳幼児教育の時からでも、自己肯定感や自分の存在に確固たるものがあり、のびのびと育っていく姿というのは、「自立」した姿に映るのではないかと。思う。

委員：裏面の基本目標についての考えというところに、「学園化構想」という言葉が載っていない。

例えば、家庭教育支援員あるいは家庭教育サポートチームが載っているのであれば、コーディネーターとは言わないが、地区の大人と子どもが関わってというようなことは記載しなくてもいいのか。

事務局：裏面のキーワードは議論のための材料である。

教育部長：今後の「学園化構想」という言い回しについて説明。（概念としては変わらないが、「構想」ではない時期にきている。）

委員：持続可能な社会のところにあるキーワードは、Well-being 寄りではないか。幸福追求のような文言が並んでいる。パッとキーワードを出せないで恐縮だが、少し違う角度の言葉で持続可能にピッタリはまる言葉があるのではないかと感じた。

(3) 「第3期教育振興基本計画の各分野の基本目標（案）」について【資料2-3】

【事務局より】

- ・「第3期教育振興基本計画の各分野の基本目標（案）」について事務局より説明

【意見交換】

委員：1の市民総ぐるみの教育にある「園・小中一貫教育学舎計画」と「学園化構想」の違いを説明していただきたい。

教育部長：上記について説明。（中身は変わらず、現状に合わせて「構想」から「計画」へ。）

委員：原野谷だけでなく、他の学園化も今後進んでいくので、学園化構想のままでも良いのでは？

教育部長：学園化構想は特定の学園を指しているわけではなく、市内全域の学園化を進めていくもの。その一部が完成するにあたって「構想」のままではいかなものかということである。

教育長：原野谷学園では、イェナプラン教育について実践している。小中一貫教育カリキュラムが出来上がり、それをさらに深めていくのが学舎であり、未来の学校という位置づけとなる。大きな括りの中では、学舎計画の中の学園化構想と捉えているため、構想が無くなる訳ではない。

委員：第2期の計画と比べると、キーワードを意識しすぎて形容詞が多く、1つの文章が長くなってしまっている。例えば学校教育のところでは、1文で3行続いたり、下の段落と内容が被っていたりする。

委員：子どもが遊べる環境や学べる環境を公の機関だけで担っているのは、充実した教育ができない。民間の1人の人間として、どんどん動いていかななくてはならないと感じている。一方で、報徳社でそのようなことをやろうとしても、文化財であるため、子ども向けの取り組みがなかなか進まない状況にある。民間が連携した活動や民間に理解を求めていくことはとても重要で、図書館では市民との連携や協働について見出しをつけて書いているため、社会教育でも民間が主体的に動いていくような働きかけをしていただけるとやりやすいと感じる。

(4) 「第3期教育振興基本計画の基本目標及び施策（案）」について【資料2-4】

【事務局より】

- ・「第3期教育振興基本計画の基本目標及び施策（案）」について事務局より説明

【意見交換】

委員：乳幼児教育で「意欲の向上」を追加しているが、誰の向上なのか。また、なぜ追加したのか。

こども希望部長：保育施設で従事する職員の質の向上である。国の「はじめの100か月の育ちビジョン」を基にしながら乳幼児教育を考えている。働く人たちがWell-beingや意欲、誇りをもって働ける気持ちを持たなければ、良い保育・教育ができないため、ここでは職員の意欲の向上としている。

委員：そうだろうとは思いつつも、少しネガティブにも取れるような表現がどうかと感じていた。

委員：文章の中で、「こども」「子ども」「子供」が混在している。こども家庭庁では、ひらがなの「こども」を推奨しており、心身の発達の過程である「こども」という意味がある。通常の保育の中では「子ども」を使っており、それぞれの表現の違いはあるが、統一が必要だと思っている。

教育部長：教育部では「子ども」が使われているが、間違っているかもという見方をされないためにも、ジャンルごとに整理が必要。

教育長：上位計画と合わせるよう検討する。

委員：食育について、そのまま学校教育から社会教育へ移るのは違和感がある。地産地消の積極的な推進やこども食堂が移るのはわかるが、学校教育との関連が強いかと思うものもあるため、もう一度見直しをしていただければと思う。

教育部長：予算の編成上、社会教育と親和性がある。社会教育のカテゴリーに入ると違和感があるので、「社会教育」という名称も含めて綺麗に見えるよう検討していく。

委員：学校給食法もあるので、今後どのようにしていくかは検討していただきたい。

委員：乳幼児教育では施策4のイ「私立園等と連携したこどもの育ちを支える環境づくり」とあり、学校教育では施策1のキ「園小中の連携・接続」とある。第2回の委員会でも、園小中の進学部分の連携が非常に上手くいって、プレッシャー無く小学校、中学校の新しい環境に行けたというアンケートが出ていた。今の書き方であると、学校教育では縦の連携、乳幼児教育では横の連携を強化しているような印象がある。乳幼児教育にも小学校と園の繋がりを強化するというものが入ると、まとまってくると思う。

こども希望部長：学校との連携は、施策1のウ「乳幼児期の育ちや学びを学校教育につなぐ」に入ってくる。施策4については、先ほど申し上げた「はじめの100か月の育ちビジョン」による、こどもは保育施設や保育者、保護者だけでなく、地域全体、社会全体で育ちを考えて支援していかなくてはならないという考えのもとにある。今後は、地域の方にも、関係団体にも、私立園を含む園関係者と保護者にも普及啓発をしながら、一緒に子育てをしていく。特に、乳幼児教育と言われる小学1年生になるまでの100か月間は、そのような取り組みをしていきなさいと示されているため、その部分を施策4に謳わせていただいている。

委員：乳幼児教育の施策2のイでは、「資質」という言葉が加えられているが、言葉としてあまり良い印象が無い。学校教育では「育成」となっているので、もう少し配慮が必要ではないか。また、社会教育の施策1では、「青少年健全育成活動の充実」など大雑把な印象がある。

こども希望部長：資質向上は通常的に使っているが、言い回しについては検討する。

希望部長

教育部長：社会教育について、市長部局へ移管した業務、教育委員会に残っている業務について説明。

委員：話を聞いていると、社会教育という言葉にこだわらなくてもいいのではないかと。また、図書館の内容も社会教育にまとめることができそうであるが、可能かどうかを教えていただきたい。

教育部長：まとめようという話もあったが、前回の総合計画、教育振興基本計画ともに「図書館」という独立したジャンルが存在しており、大切にされていたということもあるので、今はこの状態で資料を出している。公民館のような仕事もしているため、独立してもいいとは思いますが、今後見極めをしていきたい。

社会教育という名称は次回検討したいと思うが、次の候補とすると「生涯教育」と考えている。

教育長：上位計画で議論をして、それによって変わってくると思う。

委員：時間が残っているので、その他に説明したいことや質問があれば。

企画政策：総合教育会議及び教育大綱について説明。大切な部分は残しつつ進めていく。

課長

委員：いじめの部分とインターネットの部分は成果と課題には強めに出ていたが、第2期のリーフレットには書いていないため、違和感がある。

委員：新しい教育大綱からも文化やスポーツが抜けていくのか。

教育部長：教育大綱は掛川市で作成しており、市長部局、教育委員会を問わず全てが対象となるため、含まれるようになる。

委員：これからの時代は、AIに関することが進んでいき、世の中が一気に変化していくだろうという期待や不安がある。海外ではAIの有効な使い方や危険性についての授業が行われている。日本では、国でもこれらの話は出ていないので心配ではあるが、先を見通して大綱や基本計画にAIの教育に関して一部分でも入れるだけで大きく違ってくると思う。

教育部長：情報化推進計画でも指摘があったため、今後検討させていただきたい。

委員：教育大綱にも最初のページに「報徳」という言葉が使われていてありがたいと思っているが、報徳社が子どもたちの将来、教育に対して何かできているのかという思いがある。書いていただいていることに甘んじることなく、報徳の思想もアップデートしながらまだまだ努力が必要だと思っている。

教育部長：報徳の土壌があり、そこから育つのが生涯学習の幹であり、そこに開いたものが協働である。そういった意味で、報徳から学ばせていただいたものを掛川市が活用しているというイメージである。

教育長：教育関係では報徳精神という言葉は使わず、報徳の教えと子どもたちには伝えている。

6 その他

(1) 今後のスケジュールについて

・第4回策定委員会

ア 日 時 令和7年12月24日（水）午後2時～4時

イ 場 所 市役所4階会議室1

ウ 内 容 第3期教育振興基本計画案（各論部分）の協議

7 閉 会